

コロナ禍での各種活動支援について

(広域・地域)

1 課題の背景 *****

とり
まく
状況

問
題

新型コロナウイルス感染拡大発生に伴う各種活動の取り止め・見送り

- ・地域ニーズに応えるため活動支援を行う必要があった。
- ・4Hクラブに対する酪農体験学習（出前授業）のニーズも根強くあった。

●問題1 開催場所の確保
感染リスクを抑えることが可能な会場・空間を確保する必要があった

●問題2 インターネット環境の確保
インターネット環境のない農業者に対する具体策を提案する必要があった

★この状況はいつ終わるか見通しが立たない
→このまま何もしないことは、各活動の停滞につながることを懸念（危機感）
活動に対するモチベーションを維持するためにも、今できることを模索する必要がある

I 行事開催を前提とした検討

新しい生活様式「**北海道スタイル**」の遵守

- ・マスク着用、消毒の励行
- ・定期的な健康管理（検温）
- ・定期的な換気
- ・出席者の一定の距離の確保（密を避ける）など



- 開催場所の工夫
 - ・面積に余裕がある
 - ・換気が可能である
- 対象者の理解醸成
 - ・こまめな連絡による意識の共有

II 集合形式のリモート研修会

- ・面積に余裕があり、換気が十分に可能な場所
- ・インターネット環境のある会場の確保



- ・検温計、消毒液の確保
- ・利用可能施設の把握

2 活動の経過 *****

(1) 感染リスク低減を配慮した会場での開催



屋外での現地研修会
(標津町デーリィスクール)



検温の実施および密を回避しながらの学習会（根室女性リーダー会）





マスク着用と間隔をとりながらの酪農体験学習（講師：標津町4HC（左）、別海町4HC（右））

(2) リモート学習会の実施



Wi-Fi環境のある会場での女性リーダー会研修会
（別海町 マルチメディア館）

3 活動の成果 *****

(1) コロナ禍の状況での活動実施の実績

- ・ 4Hクラブ会員の自信とニーズに応えることができたことの満足感につながる
- ・ 地域のニーズに応えることができたことで、両4Hクラブ会員の満足感につながった

(2) 活動の停滞抑制＝モチベーションの維持・向上

会員の声

<デーリィスクール受講生>

- ・ 対策をしっかりとってもらい安心して勉強することができた。
- ・ 学習意欲が損なわれず、（開催してくれて）よかった。

<女性リーダー会会員>

- ・ この状況下で活動しことは、モチベーション維持・向上につながっています！

関係者の声

<デーリィスクール事務局>

- ・ 受講を希望してくれた受講生に対し対応でき一安心できた。

4 今後の活動 *****

- (1) 現在の状況継続を想定した、各組織活動の計画作成・運営支援
- (2) 各種活動の内容の充実を図るための他地区での実践事例情報収集